

大東亞戰爭必勝完遂



昭和十八年
一月

我が子、國の子 國の子、我が子

我が子は國の子だと氣のつく時、親の責任は強くなります。可愛いはばかりでなく、我が家にとつて大切なばかりでなく、國の子として誤りなく育てなければならぬといふ、おごそかな感じですが、我が子を弱くしたり、悪くしたりしたら、我が子であるだけなら親の勝手といふものの、國の子を粗末にしたといふ不所存になるのです。申し譯ないことになるのです。國に捧げて初めて國の子になるのではありません。生れた時から國の子なのです。

國の子が我が子であると思ふ時、親の喜びは大きくなります。親とは、國の子を、我が子として生み、抱き、育て、ゆく榮譽をもつばかりでなく、國の子に、親として親まれ、たよられ、貴はれもしてあるものです。我が子を我が子としてあるだけのことではなく、國の子を、それも、頼まれたり、預けられたりしてあるのではなく、はじめつから、我が子にしてあるのです。親といふものは何んといふえらいものでせう。

我が子國の子、國の子我が子。ごつちを先きにいふことも出来ません。一つです。

幼稚園から

○オメデタウゴザイマス。なぜ目出度いのでせう。お子さんが、たのもししい皇國民となつて、御國のために盡すことの出来る年へ、一年進まれたからです。子ども成長は、御國のため故に目出度いことなのです。國民幼稚園のわたくし達は、こうした心持ちで、お子さん方のお正月を迎へました。

○ヘイタイサン アリガタウゴザイマス。わたくし達は毎日この心持ちで暮してゐますが、健康に、快活に、にこ／＼としてお正月を迎へてゐるお子さん達の顔を見て、今更にこの心持ちが込みあげて來ます。

○御國のための一心と、戦下將兵への感謝とで、わたくし達の保育ごころも盛り上げられて、今年もお子さん方ひとり／＼を、大切に保育します。御家庭のお母さん方、御熱心に力をあはせて。